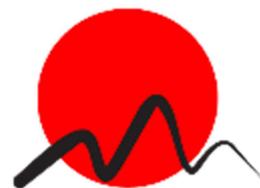


Slovenia Monthly June 2019

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2019年7月8日



～6月の主なポイント～

- 内政： 国民議会、エリヤヴェツ国防相の不信任決議案を否決
- 外政： 三海域協力イニシアティブ首脳会合及びビジネスフォーラムの開催
関経済産業副大臣がスロベニアを訪問
ベルトンツェル副首相兼財務相が訪日
- 経済： パナソニック研修センター開設式典
アバンカ銀行民営化、政府が保有株式を売却
- 治安： コペル近郊で貨物列車脱線事故が発生

政治

【内政】

●シャレット首相、ALDE所属政党の共闘を呼びかけ【3日】

シャレット首相は、スロベニア国内の欧州自由民主同盟(ALDE)所属政党に対し、次期国政選挙における共闘の呼びかけを行った。同首相は、フェイスブック上で、「更なる分断を望まないのであれば、ALDE所属政党は、早急に力を結集しなければならない。自分は、それが実現できると信じている」と述べた。ALDE所属の国内政党は、シャレット首相が党首を務めるマリヤン・シャレット・リスト(LMS)、年金者党(DeSUS)、アレンカ・ブラトウシェク同盟(SAB)、現代中央党(SMC)の4政党で、本年5月の欧州議会選挙では各政党が個別に候補者名簿を作成し、選挙に臨んでいた。なお、シャレット首相の呼びかけが、次期国政選挙での共同候補者名簿の作成を意味するのか、もしくは各政党の統合を意味するのかは定かではないが、DeSUSのエリヤヴェツ党首は、そのような協力は現実的であり真剣に検討するに値する旨歓迎のコメントを發したのに対し、SAB及びSMCは選挙協力を慎重な姿勢を示している。

●ツェラル外相、現代中央党(SMC)の党首再選を希望せず【4日】

ツェラル外相は、本年秋に開催予定の現代中央党(SMC)党大会において、現在自身が務める同党党首への再任を希望しない意向を明らかにした。SMCは、ツェラル外相が引き続き外相の座に留まり、党が連立与党の一員としてスロベニア政治で重要な役割を果たすことを今後も支援していく旨発表した。



ツェラル外務大臣 (Photo: Nebojša Tejić/STA)

●連立与党、2020～21年予算の優先事項につき合意【10日】

連立与党及び政府閣僚は、ブルドーで開かれた会合において、今後の予算案につき協議を行った。同会合において、各党は、2020年及び2021年の予

算案の優先事項を、医療と年金とする旨一致した。2020年予算案は、本年10月1日までに議会に提出される予定で、歳出は104億5千万ユーロが上限とされている。会合後、ベルトンツェル副首相兼財務大臣は、7月には予算案につき協議する最初の閣議が開催される予定であり、来年度予算は歳出が増加しても経済成長を基に財政収支は黒字となる見込みで、公的債務もGDP比65%から61%まで削減することを狙いと述べていると述べた。

●左派、連立与党との協力に不満を表明【20日、21日】

20日、連立与党に閣外協力を行う左派のメセツ党首は、アバンカ銀行民営化の決定を受けて、政府との協力関係に不満の意を表明した。メセツ党首は、「左派は、政府との協力合意の際に同意したプロジェクトが夏前に実施されることを望んでおり、2週間前にもシャレツ首相に希望を伝えたが、何も行動が起こされていない」と述べ、「政府と今後も協力を続けることに意義があるか、7月に党内で議論する」と述べた。メセツ党首の発言を受け、シャレツ首相は記者団に対して、「そもそもアバンカ銀行民営化の是非は(左派との)協力合意には含まれていない。自分が(アバンカ銀行売却に関し)受け身だったという指摘は誤りであり、全ての可能性を精査し、法律専門家の意見を求めた」と反論したほか、「左派が政府に対して不満を述べるのはこれが初めてではない。政府内にいるのと、閣外にいるのでは状況が異なる」と述べた。

21日、左派とマリヤン・シャレツ・リストの院内総務が協議を行った。協議の詳細は明らかにされていないが、報道によると、左派が実施を希望するプロジェクトにつき話し合いが行われた。

●国民議会、エリヤヴェツ国防相の不信任決議案を否決【21日】

21日、国民議会は、野党民主党(SDS)が発議したエリヤヴェツ国防相不信任決議案を賛成35票、反対39票で否決した。決議案に賛成票を投じたのは野党のSDS、新スロベニア(NSi)、国民党(SNS)で、連立与党を構成する各党は反対票を投じた。なお、政府に閣外協力を行う左派は投票を棄権した。不信任決議案に関する議会での討論において、エリヤヴェツ大臣は、本年4月にシュケルビンツ軍司令官を解任した際に同大臣が軍の情報・治安機関を濫用したとの野党側の指摘を否定するとともに、「自分が過ちを犯したのであれば、自分から辞任することだろう」と述べつつ、「SDSが国民議会の情報・治安機関監査委員会を政治的目的のために利用した」と述べ、SDSを非難した。

●建国記念日における大統領の演説【24日】

24日、建国記念日の前夜にリュブリャナのコングレス広場において記念式典が開催された。同式典において、パホル大統領は、「スロベニアのような小規模国家にとって、自分達の国家を持つことは価値のあることであり、28年前の独立は我々の歴史において最も輝かしい出来事であった」と述べ、誰もが自由に自己表現でき、他者の尊厳と自由を尊重する寛容な社会の創造を呼びかけた。なお、同式典には、パホル大統領のほか、シャレツ首相、ジダン国民議会議長をはじめとする要人が出席した。また、パホル大統領は、独立戦争における犠牲者の遺族等を招いたレセプションを開催した。

【外政】

●三海域協カイニシアティブ首脳会合及びビジネスフォーラムの開催【5日～6日】

6月5日から6日にかけて、スロベニアにおいて三海域協カイニシアティブ首脳会合が開催され、同イニシアティブのメンバー国12か国から大統領が9名参加したほか、ユンカー欧州委員会委員長、シュタインマイヤー・ドイツ大統領、ペリー・米国エネルギー長官等の要人が出席した。6日、パホル大統領は、首脳会合後に、ポーランド、クロアチア、ルーマニアの大統領及びユンカー委員長とともに記者会見を行い、共同宣言を発表した。共同宣言では、三海域協カイニシアティブが、経済開発の推進、EU内の連結性の向上及び欧州大西洋のつながりの3本柱を目標とし、既存のEU戦略を補完するものであることが確認されたほか、三海域投資基金の設立を歓迎する旨等が記載された。また、首脳会合に合わせてビジネスフォーラムも開催され、エネルギー、イノベーション、運輸、デジタル化等の分野に関するパネルディスカッションが行われた。



(Photo: Nebojša Tejić/STA)

●プラトウシェク・インフラ大臣の中国訪問 【10日～12日】

10日、プラトウシェク・インフラ大臣は、寧波において開催された第2回中国・中東欧諸国投資貿易博覧会に出席した。同大臣は、同博覧会に出席している中国の閣僚及び政府高官に対して、アジアと欧州の各国をより一層近づける近代的なシルクロード創設の重要性につき強調するとともに、現在計画されているコペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線は、コペル港の競争力を更に高めることになると述べた。また、同大臣は、博覧会に参加するスロベニアの運輸ロジスティクス企業のブースを視察した。

12日、プラトウシェク・インフラ大臣は、李・中国運輸交通部部長と会談し、中国が欧州との交通の発展を目指す中、スロベニアの地政学的優位性について強調した。また、同大臣は、世界有数の海運企業であり、ピレウス港のコンテナ・ターミナルを100%所有し、コペル港においても重要なパートナーである中国国営企業Cosco社の幹部とも会談し、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設計画についてプレゼンし、協力の強化に期待を示した。

●パホル大統領のオーストリア訪問【13日】

パホル大統領はオーストリアを訪問し、ファン・デア・ベレン・オーストリア大統領と会談を行った。両大統領は、オーストリアのスロベニア人コミュニティ及びスロベニアのドイツ語系コミュニティの状況に関して意見交換を行うとともに、1919年にケルンテンの住民が住民投票によりセルビア人・クロアチア人・スロベニア人王国ではなくオーストリアに留まることを選択したことに関し、スロベニアとオーストリアが共同で100周年を記念することに支持を表明した。また、両大統領は、オーストリアがスロベニアとの国境で実施する国境検査、クルシュコ原発、西バルカン情勢等についても協議を行った。パホル大統領は、今回の訪問は近隣国全てと良好な関係を保つためのスロベニアの努力の一環であり、問題は対話で解決していくと述べた。なお、パホル大統領は、滞在中、ビアライン首相及びソボトカ国民議会第一議長等のオーストリア側要人とも会談を行った。

●スロベニア・ロシア政府貿易・経済・科学委員会の開催【14日】

14日、ブレッド市において、スロベニア・ロシア政府間の貿易・経済・科学委員会会合が開催され、特にIT、運輸、農業及び科学研究分野での協議が実施された。同会合に出席したツェラル外相は、「二国間の貿易総額は11.6億ユーロに上り、スロベニアの直接投資先としてロシアは4位、輸出先としても9位であり、本委員会を通じて新たなビジネス機会が生まれ、経済関係を更に発展させることが重要である」と述べ

た。ノスコフ・ロシア通信・メディア大臣は、両国の協力関係は良好であり、具体的な事業が進捗していると述べ、特にスベルバンク及びロシア鉄道を含むロシア企業がスロベニア企業との協力を模索していることを歓迎した。

●ツェラル外相、北マケドニア及びアルバニアのEU加盟交渉開始延期の決定に遺憾の意【18日】

ルクセンブルクで開催されたEU総務理事会において、北マケドニア及びアルバニアのEU加盟交渉開始の決定が遅くとも本年10月まで延期されたことを受け、ツェラル外相は遺憾の意を表明し、「スロベニアは両国に関して、加盟交渉が早急に開始されることを支持しており、再度延期されることがあってはならない」と述べた。また、同外相は、「特に北マケドニアについては、ギリシャとの間で国名問題を解決していることから、本年秋までにEU加盟交渉が開始されなければ、これらの国々を含め政治的に悪影響を及ぼすだろう」と懸念を表明した。

●ベルトンツェル副首相兼財務大臣の訪日【20日】

ベルトンツェル副首相兼財務大臣は、IMF及び日本財務省が共催するIMF公的債務管理フォーラムに出席するため訪日した。20日、ベルトンツェル大臣は麻生副総理兼財務大臣と会談し、両国の財務・金融政策等について意見交換を行った。ベルトンツェル大臣は、スロベニアの政治経済情勢、ユーロ圏の状況等について説明し、また、両大臣は、大阪において開催されるG20サミットを前に、世界経済情勢等についても意見交換を行った。

IMFフォーラムにおいて、ベルトンツェル大臣は、公的債務管理等に関するトピックを中心に基調講演を行った。また、同フォーラムでは、世界金融市場におけるリスク、景気減速、各国における債務管理及び中央銀行政策、高齢化、貿易摩擦等について議論された。また、滞在中、同大臣は、みずほ銀行等といった日本の大手金融機関の代表とも会談を行った。



(Photo: スロベニア財務省)

●クロアチア経済大臣のスロベニア訪問【21日】

ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、スロベニア東部のクロアチアとの国境付近に位置するモクリツェにおいて、ホルヴァット・クロアチア経済・中小企業大臣と会談し、両国間の経済分野における協力、投資、成長戦略、労働市場等について意見交換を行った。同会談は、6月25日の両国の建国記念日を前に、スロベニア・クロアチア・ビジネスクラブが主催したものの。2018年の両国間の貿易総額は前年比11%増の55億ユーロに達しており、両大臣は、今後も更なる経済関係の強化を目指すことで一致した。また、両大臣は頭脳流出を防止するための賃金上昇、産業ニーズに合致した教育の提供等の重要性について強調した。

●シャレツ首相、バチカンを訪問【26日】

シャレツ首相は、バチカンを訪問し、フランシスコ法王と会談を行った。会談において、両者は西バルカン情勢、移民問題、スロベニアにおけるカトリック教会と国家との関係等について意見交換を行った。西バルカン諸国について、両者は、EU拡大に向けた加盟交渉が早急に開始されることが望ましいとの意見で一致したほか、シャレツ首相は、国家とカトリック教会の関係について、スロベニアにおける（主にキリスト教系の）私立小学校の補助制度に関し、改善のための法改正が議会で議論されている旨紹介した。なお、シャレツ首相は、バチカン滞在中、パロリン・バチカン国務長官と会談したほか、バチカン美術館においてスロベニア人建築家プレチュニク(Jože Plečnik)がデザインした聖杯を含む礼拝用品の展示会のオープニング式典に出席した。

日スロベニア関係

関芳弘経済産業副大臣のスロベニア訪問

6月8日から10日にかけて、関芳弘・経済産業大臣がスロベニアを訪問しました。

9日、関副大臣は、スロベニア南部コचेウイエ市の安川電機の産業用ロボット製造拠点を訪問し、同社の事業展開について説明を受けた後、工場内を視察しました。その後、関副大臣は、当地に進出する日本企業関係者らと、スロベニアのビジネス環境等について意見交換を行いました。



(安川電機の産業用ロボット製造拠点の視察)

10日、関副大臣は、吉田大使とともに、カンタルティ・スロベニア経済開発・技術副大臣と会談し、日本とスロベニアとの経済関係等について意見交換を行いました。



(カンタルティ副大臣との意見交換の様子)



カンタルティ経済開発・技術副大臣は、友好的な二国間関係につき触れ、近年、あらゆるレベルで政治、経済、科学技術協力等の分野において関係が深化していることを歓迎しつつ、「スロベニアは中東欧地域において急成長している国のひとつであり、5億人のEU市場へのアクセスを有する。また、優れたインフラ、質の高い労働力、高い生活水準等を誇り、外国からの直接投資の誘致に注力している」旨述べました。

両副大臣は、日本が提唱する「Society 5.0」及び本年2月に開催されたフォーラムについて触れ、スロベニアが「Society 5.0」を2021年のEU議長国の優先課題のひとつとして掲げていることから、同コンセプトを今後両国間の協力分野のひとつとして推進していくことを確認しました。

また、関副大臣からは、外国人に関する法令について、労働許可等を取得することが難しくなっている点を指摘しました。これに対し、カンタルティ副大臣からは、スロベニア経済開発・技術省は2018年末に外国資本の企業等から同様の指摘を受けて、すでにスロベニア外務省とともに改善策に取り組んでいる旨説明がありました。



(スロベニア国旗について説明を受ける関副大臣)

(写真:経済産業省提供)

パナソニック研修センター開設式典

6月13日、吉田大使は、ホーチェ市において、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣とともに、パナソニックの研修センター開設式典に出席しました。



(テープカットの様子) (Photo: STA)

式典において、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、「スロベニアと日本の協力事業は、いつも高い付加価値及び技術を伴うものであり、また、東部地域の開発のためにもホーチェ市にパナソニックの研修センターが開設されたことを歓迎する」と述べました。

吉田大使は、「パナソニックは、HVAC分野におけるリーディング企業であり、スロベニアにおいて革新的で環境に優しい技術と教育を提供する新たな事業を開始することは喜ばしい。研修センター開設にかかるスロベニア政府及びホーチェ市関係者の支援にも感謝する。本事業を契機に両国間の素晴らしい協力関係がさらに発展することを期待する」と述べました。



(吉田大使スピーチ)

センターの目的: 本研修センターは、スロベニアにおいてパナソニックが販売する空調設備、ヒートポンプ等の営業・サービスに関わる技術者を対象とした、暖房、換気、空調システム(HVAC)における最新技術にかかる講習及び訓練を行うことを目的としています。また、高校生を対象とした、HVAC分野における教育にも活用される予定です。

経済

【経済一般、指標・統計】

●スロベニアの法定最低賃金、EU22か国中第9位【5日】

EUの専門機関のひとつである欧州生活労働条件改善財団(Eurofound)が公表した報告書によると、スロベニアの税込最低賃金は886.63ユーロで、法定最低賃金を定めているEU加盟国22か国中9位であることが明らかになった。1位はルクセンブルクの2071.10ユーロで、最下位はブルガリアの286.33ユーロ。また、スロベニアにおいて法定最低賃金で働く人の割合は4.1%で、6番目に割合が低い結果となった。なお、同ランキングでは最も割合が低かったのは、チェコの2%で、最も高かったのはポーランドの13.7%であった。

●S&P、スロベニアの格付けをAA-に格上げ【17日】

格付け会社スタンダード・プアーズ(S&P)は、スロベニアの格付けをこれまでのA+(ポジティブ)からAA-(安定的)に格上げした。S&Pは、財政黒字化と貿易黒字に加えて、力強い経済成長と雇用の伸びを格上げの理由として挙げた。なお、本年4月には格付け会社Moody'sがスロベニアの格付けをBaa1「Stable(安定的)」からBaa1「Positive(ポジティブ)」に上方修正しており、スロベニア財務省は、「Moody'sに続き、S&Pによる格上げは、スロベニアが2006年に有していたAAの格付けを目指して、正しい道を歩んでいることの証左である」旨コメントした。

【企業、産業の動向】

●リュブリャナ空港、国際線増加【4日】

リュブリャナ空港運営会社「Fraport」は、本年8月よりエア・セルビアがセルビア第三の都市ニシュとリュブリャナを結ぶ便を週二回運行(月、木)する予定であると発表した。また、エールフランスはパリ・リュブリャナ便を週7便から13便に増設する予定のほか、7月15日～9月2日のハイシーズン期間中、ブリティッシュエアウェイズはロンドン(ヒースロー)・リュブリャナ便を週二回(月、金)運行する予定。

●政府、マリボル空港運営権を国有会社へ移管【6日】

政府は、本年7月に中国資本「SHS Aviation」社との空港リース契約が解除となるマリボル空港の運営権を一時的に国営エンジニアリングDRI社に移管することを決定した。この決定は、本年1月に「SHS Aviation」社が空港滑走路拡張計画の遅延を理由に、2017年に署名された15年間のマリボル空港リース契約の解約通知を行ったことを受けて下されたもの。プラトウシ

エク・インフラ大臣は、そもそもなぜこのような悪しきパートナーが空港運営のパートナーに選ばれたのかと疑問を呈しつつ、政府は、マリボル空港の運営権をDRI社に移管する以外に選択肢がなかったと述べた。また、同大臣は、政府としては空港の長期的な運営者となる意図は有しておらず、DRI社への運営権の移管はあくまで一時的な解決策であると述べ、今後の可能性としては、新たなパートナーとのリース契約の模索、または空港の売却が考えられるが、前者となる可能性が高いと述べた。



(Photo: Radio Maribor – RTV Slo)

●ゴレニェ社、約100名を解雇予定【6日】

大手家電メーカー「Gorenje」社は、現在組織再編に着手しており、同社組合によると、1481名が解雇され、その内1377名に新たな契約条件が提示され、再雇用される見込み。当初は、約270名が解雇される見込みであったが、現段階では解雇予定者数は当初より減り、104名となる模様。再雇用のプロセスは6月10日から開始される予定。

●リュブリャナ空港ターミナル拡張事業、コントラクターが決定【11日】

リュブリャナ空港運営会社「Fraport」は、同空港ターミナル拡張工事に関し、本年初頭に行われた入札の結果、企業連合「GIC Gradnje社／Elcom社」が落札したと発表した。入札には6社が参加し、「GIC Gradnje社／Elcom社」連合が最も好条件を提示した。今後、不服申し立て期間を経て入札結果が確定次第、拡張工事が開始される予定で、2021年後半のスロベニアのEU議長国任期開始までに工事が完了する予定。ターミナル拡張により、出発ゲートや保安検査の施設増設のほか、レストランや売店の設置も予定されている。

●新リュブリャナ銀行民営化、政府が更なる10%の株式を売却【19日】

スロベニア国家ホールディング（SSH）は、スロベニア政府が保有する新リュブリャナ銀行（NLB）の株式10%を機関投資家に売却した。スロベニア政府は、

昨年、NLBの株式65%を売却済みであり、今般の同行の株式売却により、政府のNLB株所有比率は、欧州委員会との合意を満たす25%プラス1株に引き下げられた。SSHのクルジャン会長は、「スロベニアにおける最大の民営化プロセスのひとつが成功裡に完了したことに満足している。NLBは、独立した金融機関として、引き続きスロベニアの経済の発展を支えていくことになる」と述べた。また、欧州委員会は、スロベニアがNLBの民営化を完了し、欧州委との合意を実施したことを歓迎する旨コメントを発表した。



(Photo: The Slovenian Times)

●アバンカ銀行民営化、政府保有株式の売却が決定【19日】

スロベニア国家ホールディング（SSH）は、政府が保有するアバンカ銀行株を、米国ファンドのアポロ（Apollo）が所有するマリボル信用銀行（NKBM）に売却することを決定した旨を発表した。売却額は4億4400万ユーロで、当局の承認後、本年末までに取引が完了する予定。SSHは、「アバンカ銀行の民営化は（2013年の）政府による銀行救済の際にスロベニア政府が欧州委員会に約束した事項を全て満たすものである」旨コメントを発表した。なお、アバンカ銀行民営化を巡っては、シャレツ首相が6月7日に自身のツイッターで「アバンカ銀行民営化については真剣に再考される必要がある」と述べ、疑問を呈していたが、当初の予定通り民営化が行われることになった。また、売却決定後、与党社会民主党（SD）、現代中央党（SMC）、野党の民主党（SDS）、左派等が売却に関し否定的なコメントを発表したが、野党の新スロベニア（NSi）は「アバンカ銀行民営化は金融機関及び投資家に対し、そして国際市場において信頼性を保つために重要である」と述べ、歓迎するコメントを発表した。

●Moody's、NKBMの格付けをBaa2に格上げ【27日】

格付け会社ムーディーズ（Moody's）は、マリボル信用銀行（NKBM）の格付けをBaa3からBaa2に格上げした。ムーディーズによると、昨年末時点において

スロベニア国内の銀行の中で最も不良債権比率が低かったアバンカ銀行の買収により、NKBMの総資産は80億ユーロ、マーケットシェアは22%となり、市場における同行の立場を強化するものと格上げの理由を記している。

発見！スロベニア

スロベニア人プロバスケットボール・プレイヤー、ルカ・ドンチッチ選手がNBA新人王に選出



(Photo: Anže Malovrh /STA)

6月25日、米国プロバスケットボールリーグNBAの2018-19年シーズンにおけるルーキー・オブ・ザ・イヤー賞の発表が行われ、スロベニア人のルカ・ドンチッチ選手(Luka Dončić)が受賞しました。

1952-53年シーズンから制定され、最も活躍した新人選手に与えられるこの歴史ある賞において、米国出身以外の選手が受賞したのは2001-02年のパウ・ガソル選手(スペイン)、2014-15年のアンドリュー・ウィギンス選手(カナダ)、2017-18年のベン・シモンズ選手(オーストラリア)に次いで史上4人目、ヨーロッパ出身選手では史上2人目の快挙となりました。

2015年にスペインのレアル・マドリードのトップチームに昇格したドンチッチ選手は、2017年欧州選手権でスロベニアを初優勝に導くと、2018年にはレアル・マドリードのユーロリーグ優勝に大きく貢献し、リーグMVPに選出されました。

その後、ドンチッチ選手は米国NBAに活躍の場を移し、今季はダラス・マーベリックスの一員として72試合に出場し、トリプルダブルを8試合達成する活躍を見せました。

スロベニア出身のNBAプレイヤーでは、現在、マイアミ・ヒートで活躍するゴラン・ドラギッチ選手(Goran Gragić)が有名ですが、今後、ドンチッチ選手の活躍からも目が離せません。

軍事・治安情勢・危険情報

●マリボル地方裁判官の襲撃事件【16日、26日】

16日未明、マリボル地方裁判所のダニエラ・ルジッチ裁判官が自宅前で襲撃され、重傷を負う事件が発生した。犯人の動機は不明だが、同裁判官は、マリボル地方裁判所で企業犯罪部に所属し、いくつかの世間の注目を集める裁判を担当していた。事件発生を受け、パホル大統領は、「裁判官への襲撃を非難する。当局が捜査を行い、犯人及び動機が特定されることを期待する」と述べた。また、シャレツ首相も声明を発表し、襲撃事件を非難すると共に、「犯人が、(被害者の職業と事件を)関連付けたかどうかにかかわらず、裁判所は独立した機関であり、裁判所の決定は尊重されなければならない。負傷した裁判官の早期の回復及び職場復帰を祈る」と述べた。その他、ジダン国民議会議長、カティッチ司法相を始めとするスロベニア要人は同事件を非難する声明を発表した。

26日、報道各局は、警察の捜査の結果、マリボル地方裁判所の裁判官襲撃事件の動機は個人的なものであり、被害者の業務に関係したものではない旨報じた。報道によると、非公式情報であるが襲撃事件の犯人として起訴されたのは、被害者の配偶者であるとのこと。

●コペル近郊で貨物列車脱線事故が発生【26日～29日】

26日午後、コペル市のフラストウリエ近郊のトンネルにおいて6両編成の貨物列車が脱線し、タンクから灯油が漏れ出す事故が発生した。対応チームがすぐさま現場に駆けつけ、被害拡大防止に努めたが、約1万リットルの灯油が流れ出したとされるほか、コペル～ディヴァチャ間鉄道路線が修復・除去作業等のため閉鎖された。27日にはザイツ環境・空間計画大臣が現場を訪れ、灯油により汚染された土壌の撤去作業を開始すると述べた。

29日、除去作業が進捗した結果、閉鎖されていた鉄道路線が再開した。環境庁は、スロベニア国鉄が専門家の指導の下で汚染物質を除去したため、可能な限りの環境被害拡大を防いだとしつつ、検査では依然として汚染物質が含まれていることが確認されたため、追加的作業が今後必要となる旨発表した。なお、6月29日時点の当局の発表では、水質汚染は見つかっていない。

社会・文化・スポーツ

●ジロ・デ・イタリア、スロベニア人選手が個人総合3位入賞【2日】

イタリアで行われていた自転車ロードレースの「ジロ・デ・イタリア(Giro d'Italia)2019」において、スロベ

ニア人ロードレーサーのプリモジュ・ログリッチ選手(Primož Roglič)が総合3位入賞を果たした。スロベニア人選手がグランド・ツアーにおいて表彰台に上がるのは史上初。なお、1位はエクアドルのリカルド・カラス選手、2位はイタリアのヴィンチャンツォ・ニバリ選手であった。



(Photo: Anže Malovrh/STA)

●マリボル、欧州のスーパーコンピューター設置拠点のひとつに【10日】

欧州委員会は、欧州高性能コンピューティング(EuroHPC:Euro high performance computing)プロジェクトによるスーパーコンピューター設置拠点8カ所を決定し、スロベニアのマリボルが拠点のひとつに選ばれた。他の7拠点は、ソフィア(ブルガリア)、オストラヴァ(チェコ)、カヤーニ(フィンランド)、ポローニャ(イタリア)、ビッセン(ルクセンブルク)、ミニヨ(ポルトガル)、バルセロナ(スペイン)。各拠点は、産業や研究機関に対し、ノウハウの発展や医療、気候変動対策等のアプリケーションの開発等を支援する予定。スロベニアに設置予定のスーパーコンピューターは、スロベニア人数学者ユーリ・ヴェガ(Jurij Vega)にちなんで「VEGA」と名付けられ、5ペタフロップスの処理能力を有することになる。

●スロベニア、世界平和度指数で第8位【16日】

オーストラリアの経済平和研究所(IEP)が2019年版の世界平和度指数(Global Peace Index: GPI)ランキングを発表し、スロベニアは昨年より2つ順位を上げ、163か国中8位にランクインした。同指数は、進行中の国内外の紛争の程度、社会の安全性と治安水準、軍事化の3分野での関連指標を基に試算されている。1位には12年連続でアイスランドが入り、2位以下はニュージーランド、ポルトガル、オーストリア、デンマークと続いている。なお、日本はスロベニアに続く9位で、最下位はアフガニスタンとの結果となった。

●スロベニアの出生数、減少傾向【23日】

統計局は2018年の出生数等に係るデータを発表した。それによると、出生数は19,585人で前年比3.2%減、死亡数は20,485人で前年比0.1%減となり、出生数が2万人を割ったのは過去10年で初めて。平均寿命については、男性が78.3歳、女性が84歳となっている。

●「ヒシャ・フランコ」、2年連続で「世界のベストレストラン50」に選出【26日】

スターシェフのアナ・ロシュ氏(Ana Roš)が経営する国内西部コバリドのレストラン「ヒシャ・フランコ(Hiša Franko)」が、英国雑誌「Restaurant」が毎年発表する「世界のベストレストラン50」ランキングで、第38位に入賞した。同レストランは2年連続の入賞で、昨年の48位から10位順位を上げた。なお、ランキングトップはフランスの「Mirazur」、2位はデンマークの「Noma」、3位はスペインの「Asador Etxebarri」が入り、日本勢では東京・外苑前にある日本料理「傳」が11位(前年17位)、南青山の「NARISAWA」が22位(前年22位)にランクインした。

●Apple Pay、スロベニアでも利用可能に【26日】

マスターカード(Mastercard)は、6月26日より同社カード利用者がiPhone等のApple社機器を利用した決済サービスであるApple Payを利用することが可能となった旨を発表した。今般、同サービスが利用可能となったのは、スロベニアに加え、ブルガリア、キプロス、エストニア、ギリシャ、クロアチア、ラトビア、リヒテンシュタイン、リトアニア、マルタ、ポルトガル、ルーマニア、スロバキアの計13か国。

ジャパン・デーの開催 ～ジャパン・デーの歴史と共に～

スロベニアで毎年恒例行事となったジャパン・デー。今年も6月22日(土)に開催し、始まって以来初の雨天の中、多くのお客様にご来場頂きました。今年も、茶道、華道、武道、書道などのデモンストレーションや体験をはじめ、御神輿御渡、蕎麦打ちデモンストレーション、日本舞踊パフォーマンスなど様々な角度から日本や日本文化を紹介するイベントとなりました。

今年もジャパン・デーとしては8回目、メテルコバ広場で開催するのは3回目でした。ジャパン・デーが初めてスロベニアで開催されたのは2012年、日スロベニア外交関係樹立20周年の年。リュブリャナ郊外のズビリエ(Zbilje)湖畔において、今よりはずっと小規模で開催されたのが始まりでした。



(初期ジャパン・デーの様子)

2013年は9月に「お月見」と題して、同じくズビリエ湖畔で開催し、第3回となった2014年には、場所をリュブリャナ市内コンベンションセンター(Gospodarsko razstavisce)に移し、屋内で開催しました。その時のポスターにはその後しばらくの間ジャパン・デーのシンボルマークとなるヒマワリが大きくポスターとして使われました。2016年までは、同コンベンションセンターで毎年開催、2017年に初めて、メテルコバ広場で開催されるようになりました。翌年2018年には、それまで継続して使われていたヒマワリのポスターを一新、アニメに出てきそうなキャラクターをデザイン、スロベニアの国の花であるカーネーション柄の浴衣を着た女の子をポスターに起用しました。そして本年、「日本の夏祭り」をテーマにブルーバックのすがすがしく、かわいらしいポスターをデザイン、プリント会社の月間ポスター賞にも選ばれました。



(左:ひまわりポスター、中央:2018年ポスター
右:本年のポスター)

ジャパン・デーが始まった当初は、武道及び漫画紹介、当館の文化紹介コーナーという少数のブースで行っていましたが、今となっては、ブースだけ数えても50以上、ステージもメインステージとサブステージ、そしてレクチャールームという3カ所で様々なイベントが進行、3000人規模の来場者がいらっしゃる一大イベントにまで成長しました。

来年もジャパン・デーが多彩な日本・日本文化紹介事業となるよう最大限の努力を行いたいと考えています。是非ご協力・ご参加ください。

スロベニア紀行

ドベルダン（スロベニア語で「こんにちは」）！気がつけばこの連載も1年。いつもお読みくださりありがとうございます。

今回は「Grintovec（グリントヴェツ）」という山（大会名もそのまま山の名前です）で毎年7月下旬に行われているレースについての話をします。僕が初めてスロベニアで出場したレースで、実は以前ここでも紹介したことがあるのですが、先月渡航した際に「20回目の今年をもって最後の大会になるから是非参加しないか？」と誘っていただきました。そう言われて参加しないわけには行きません。

ということで急遽7月もスロベニアのレースに参加することになりました。なお、このレースがどんなレースなのかは2019年1月号のバックナンバーもご覧ください。



写真は左から日本で言うところの山伏。この笛の音がスタートの合図。

中央：レースの後、中腹まで下山して記念写真。フィニッシュは一番奥に見える山頂で、荷物はスタート前に預けておけば荷運び用のケーブルで中腹まで運んでおいてもらえます。

右：大会スタッフの皆さん。僕のように渡航している選手たちをそれぞれのスケジュールに合わせて送迎してくださったり、いつも気にかけてくれるとても親切で温かくありがたい存在。写真中央の女性は完走証作成の担当で、参加選手全員の完走証を一人一人とても綺麗な字で手書きをしてくれます。過去の大会のものは大切にとってあります。なお、写真は2016年出場時のものです。

渡航する以上はレースも精一杯走りますが、それだけでなく、過去何度も温かく迎えてくれた彼らに会いに行きたいというのが一番です。僕は幸いにしてスロベニアでのレースをきっかけに、現地の数あるレースコミュニティに溶け込み、彼らはそのことをとても喜んでくれています。仮に僕がいつか競技をやめたとしてもスロベニアには行きたいですし、自分の子どもにもこの国を好きになってほしい。そう思わせてくれる人々の温かさがスロベニアの大きな魅力です。この文章を読んでくださっている皆さんにも僕の寄稿を通じてスロベニアに興味を持っていただけたら嬉しいです。出来ればスロベニアに実際に足を運んでいただきたいと思っています。ニュースレター発行のタイミングではエントリーに間に合わないかもしれませんが、もし興味を持たれたら是非出場してみてください。その際はぜひ会場で声をかけてくださいね。

今回は僕のスロベニアに対するラブコールのような文章になってしまいましたが、そう思わせてくれる素敵な国なのだなと思っていただけたら幸いです。それでは、また次号お楽しみに。

宮地藤雄（ミヤチフジオ）

2013～18 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●スリに注意

リュブリャナ中心部等において、スリや置き引きの被害が発生しています。

被害場所が多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、最近では、ブレッド湖など郊外の観光地でもスリや置き引き被害が増加しています。人混みの中では荷物を体の前で持つなどご注意ください。

●在外公館投票のお知らせ

第25回参議院議員通常選挙に伴う在外投票が以下のとおり行われます。

投票期日: 7月5日(金)から

※在スロベニア日本大使館における投票期間は、7月5日(金)～7月14日(日)です。

投票時間: 午前9時30分から午後5時まで

投票場所: 在外公館投票を実施する日本大使館、総領事館及び領事事務所など

https://www.mofa.go.jp/mofaj/ca/ov/page3_000718.html

持参すべき書類: (1)在外選挙人証, (2)旅券等の身分証明書

【広報文化班からのお知らせ】

●当館フェイスブックより、イベントのお知らせや動画などの情報発信を随時行っております。

<https://www.facebook.com/Ambassy.of.Japan.in.Slovenia/>